

令和7年度 第1回 倉吉市子ども・子育て会議

日時	令和7年8月21日(木) 13:30~15:25
場所	倉吉市役所 本庁舎3階 大会議室
出席	倉吉市子ども・子育て会議委員 13名 (欠席委員3名)
傍聴	3名
事務局等	倉吉市長 健康福祉部部長、健康福祉部子育て支援局長兼こども支援課長、健康福祉部子育て支援局こども家庭センター所長、教育委員会次長兼学校教育課長、教育委員会社会教育課長 他3名

1. 開会

司会)

皆様、本日はお忙しい中お集まりいただきありがとうございます。定刻となりましたので、第1回倉吉市子ども・子育て会議を開催いたします。委員の皆様へまず最初にお知らせがでございます。本会議は原則公開としております。傍聴される方につきましては、右手に傍聴席を設けておりますのでご承知おきください。2点目でございますが、会議の議事録の作成のため、会議の様子を録音また写真撮影させていただきますので、こちらの方もご了解ください。本日傍聴席の方に報道機関さんも来ておられまして、撮影の依頼がございましたので許可の方お願いできたらと思います。3点目でございます。本日の会議資料についてでございます。会議資料につきましては、事前に送付させていただいておりましたが、もし、資料のない委員の方がおられましたら、係のものが配付させていただきますので、お申し出いただければと思います。本日の会議の出席ですけれども、13名の出席ということで、倉吉市子ども・子育て会議条例第5条によりまして、過半数の出席がありますので、会議は成立することをご報告させていただきます。まず開会にあたりまして倉吉市長広田一恭よりご挨拶申し上げます。

2. あいさつ

市長)

皆さんこんにちは。今年度第1回目の倉吉市子ども・子育て会議を開催したところ、このように皆さん、多数ご出席いただきまして誠にありがとうございます。また、皆さん方には今年度から委員にご就任いただくということで、大変お忙しい中ですが、ご協力ご支援いただき、またいろんなご助言ご指導いただければと思います。どうぞよろしく願いをいたします。子ども・子育て会議というのは、子ども・子育て支援法に基づく会議でありまして、市として計画を定めたり、そういった折に開催をさせていただいて、皆さん方からそれぞれの分野、専門的見地からいろんなご意見をいただくということで、開催をさせていただいたと

ここで、今年度この度は、倉吉市こども計画を策定しようということを考えているところであります。もともと、子ども支援法ができて、令和5年4月ですか、施行になり、その後、皆さんご存じの通り、国の方もこども家庭庁というのが、組織自体もできて、子どもを支援、子育て対策に、国としても、しっかり取り組んでいくんだと、いう方向も示されたところで、その後、国の方も、基本的な国の姿勢として、こども大綱というものが定められたところでもあります。それらに基づいて鳥取県の方も、シン・子育て王国とっとり計画ですか、県としての計画も、令和6年、昨年定められたところで、市町村におきますその計画ってというのは、定めなければならないっていう計画ではございませんが、各市町村でも、こども計画を定めて、そういったこども施策を総合的に推進していくということが、努力規定として、設けられているところで、国の大綱もでき、県の計画もできたところですから、それでは、国、県の計画を勘案しながら、市としての総合的なこども施策をうたったこども計画を策定しようと考えているところであります。後程また事務方の方から、そういった詳細の経緯なりは、説明もさせていただくと思いますが、皆さん方それぞれの専門の分野、普段、から精通しておられる、そういう分野の中からいろんなご助言ご指導いただければと思います。それと併せまして、このたびの子ども・子育て会議の中では、倉吉市の公立保育所の再編計画っていうものも、ちょっと暗礁に乗り上げてるところもあるんですが、これは平成24年から、ずっと計画をして、中山間地にある、非常に老朽化した、保育園等を統合して、新たな施設を作っていくと、計画をしてきたところですが、設置場所のことや、また規模のことやら、そういったいろいろな問題が発生してきたもので、非常に長期にわたって実現していないところであります。今年度しっかり、その新設ということで、事業を実施しようとしたところがまた後程、説明もあるかと思いますが、令和6年、昨年度、子どもの数が倉吉市内で224名ということで、前年度に比べると49名も減ったもんですから、今後のその施設の規模なり、施設の配置なりを考えたときに、市内の民間施設等の、地域資源も有効に活用するようなことも含め、いろんな観点で、もう一度改めて、ちょっと立ちどまって考えることが必要かなと思ったところで、今少し、この子ども・子育て会議の中で皆さんから、そういった点でも意見をいただきながら、適切な配置、また、新たに設置したとしても、数年で不要になるような、そういう非常に非効率な施設の設置の仕方っていうのも、避けなければならないと思っているところでもありまして、その辺りについても、皆さん方から忌憚のないご意見をいただければと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。そういった2点について、この度の子ども・子育て会議の中でやっていきたいと思っておりますし、また、その他のも、子ども・子育てに対する課題っていうのが山積しておるところだと思っておりますので、そういったところも踏まえた、市としての子ども・子育て施策に対する基本的な事項から、もう少し細部に至った支援ができるような、そんな素晴らしい計画にできたらなと思っておりますので、皆さんのご協力ご支援をお願いいたしまして、開会にあたってのご挨拶とさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

3. 自己紹介

司会)

倉吉市長につきましては、本日別の公務の都合によりまして、ここで退席させていただきます。続きまして委嘱状の交付に移らせていただきます。このたびの会議の委員の選定に当たりましては、各関係機関、団体の方へ推薦をお願いいたしましたところ、委員の皆様にご快諾いただき、誠にありがとうございます。委嘱状についてですが、本来であれば、委員の皆様お1人ずつに委嘱状をお渡しするのが本意ではございますが、時間の制限がございますので、お手元の方にお届けさせていただいておりますのでご確認いただければと思います。それではこれより、委員の皆様、初顔合わせの方もございますので、委員の自己紹介をお願いしたいと思います。お名前とご所属のみで結構ですので、順番によろしくをお願いいたします。では正面奥の青木淳英委員の方から時計回りでお願いできればと思います。

(委員自己紹介)

司会)

ありがとうございます。続きまして事務局である市職員の方を紹介させていただきます。

(事務局自己紹介)

4. 委員の委嘱について

5. 会長、副会長の選出について

司会)

委員及び事務局職員につきましては、本日の資料1ページに名簿をつけておりますのでご確認ください。続きまして会長、副会長の選出に入ります。本会議の条例では、会長、副会長の選任につきましては、委員の互選により決定するものとされておりますが、事務局の方から提案をさせていただいてよろしいでしょうか。

(各委員了承)

司会)

ありがとうございます。それでは、会長に、青木淳英委員。副会長に田中恵子委員の方をお願いしたいと思います。皆さんの拍手をもって賛同、承認いただきたいと思います。

(拍手)

司会)

拍手多数ということでご承認いただきました。では、青木会長、田中副会長より、就任のご挨拶をいただきたいと思います。

会長)

はい。会長を拝命いたしました訳ですが、よろしく申し上げます。先ほど市長も仰ったようにこども計画とそれから再編計画に関して、主に議論していくことになるかなというふうに思いますので、よろしくお願いいたします。

副会長)

失礼いたします。副会長を拜命いたしました母子生活支援施設とそれから児童家庭支援センターをしております田中と申します。私ども母子生活支援施設のお母さん方、こどもたち、それから、地域のこどもたちの支援をさせていただいてるんですが、このたび、倉吉市の子ども・子育て会議に参画させていただくということで、微力ながら、皆さんと一緒に考えていけたらと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

6. 協議事項

(1) 倉吉市こども計画の策定について

司会)

それでは、これより議事に入らせていただきます。恐れ入りますが、これより、条例第5条によりまして、青木会長に議長をお願いしたいと思います。

議長)

はい。それでは、次第に沿って議事を進めさせていただきたいと思います。本日の会議の終了時刻はですね15時30分までとしておりますので、進行の方、ご協力の方よろしく願います。それでは早速ですけれども、協議事項の方に入っていきたいと思います。日程6の方ですね、(1)、倉吉市こども計画の策定についてということでまず、計画の概要に関して事務局の方から説明をお願いします。

事務局) 倉吉市こども計画の概要等について説明

議長)

はい。ありがとうございました。ただいま詳細な説明がありましたけれども皆さんの方から何かご質問とかですね、或いはご意見とかございましたら、挙手でお願いしたいと思います。いかがでしょうか。はい。どうぞ。

委員)

こども園を運用しております。失礼します。こども園を運営している立場からなんですけど少子化っていうのは全国的に言われてることなんですけど、この4月に、こどもたちを小学校に送り出したんですが、お隣の湯梨浜町では、羽合小学校の1年生が4クラスになったという、現状もあるわけですね。またご承知の通りこども園も新築しているという状況の中で、出生数が減ったと言っても、倉吉市でこどもを産む人が減っているっていう要素も確実にあると思うんです。ただいまの資料、倉吉市の枠のデータがほとんどだったんですが、例えばそういったこどもが増えているところのデータと比べて、比較した時にどうだろうかという、そこにやっぱり倉吉市の課題を見つければ、そういった視点が必要になるんじゃないかというふうに考えております。

議長)

ありがとうございます。何か事務局の方からありますか。

子育て支援局長)

すいませんありがとうございます。近隣の町との比較ってということで具体的には実施してはおりませんが、1つ、やはり印象的に倉吉市は税金が高いとかよく言われたりもしますし、湯梨浜町の方が保育料が安いとかというようなことも言われたりもしております。税の方は一定の基準に基づいて、税率が決まっておりますので、どうしても例えば、土地の価格だとかで差が出てくるかと思えますけども。保育料については、ご承知の通り、細かい階層によって金額が定められておまして他町と比較して高い階層もあれば安い階層があったりということで、一概には言えない部分もございます。ですので、何が根本的な原因なのかっていうことは、なかなかこう、答えを求めにくい部分はありますけども、今ご提案がありましたので、ちょっと他町とのいろんな比較ですね、今後考えていきたいかなというふうに思っております。

委員)

子育て支援サービスとか体制って倉吉市は非常に多く、非常に充実しているし先進的だというふうに前から思ってるんですが、ここで言われてるのは、それにもかかわらず、利用者が少ない。ということが謳われてるんですけども。この子育て会議の位置付けの表が、5ページにあったと思うんですが、いろいろな推進計画と連動して、倉吉市の総合的なこども計画を立てていくというふうに書いてあるわけですが、そういうふうに考えたときに行政サービスだけのお考えではなく、そのこどもたち、こどもを育てる人達、その人にとっての環境と、こども自身が育つ環境の2つを考えたときに、なぜ湯梨浜の方に流れていくのか。そう言ったときにやっぱり住環境っていうのが非常にポイントになってるんじゃないかなというふうに私は思います。そういったところも分析したときに、暮らしの課題っていうのも出てくるんじゃないかなというふうに考えるので、ちょっと意見を出させていただきました。

議長)

はい。ありがとうございます。そうですね。倉吉市だけでなく中部圏域ですね。ちょっとそのあたり、倉吉市を取り巻く周りの町ですよ。町がどういう状況なのかっていうところはきちんと押さえておいたほうがいいかなというふうに思いますね。はい。ありがとうございました。他にご意見とかありませんかご質問でも結構ですよ。データとか、見ていただいてお気づきの点とかですね、いうことがありましたらぜひ、というふうに思うんですがいかがでしょうか。よろしいですか。特にございませんか。はいどうぞ。

委員)

すいませんいろいろなデータを見せていただいて、よくわかりましたし、倉吉市の取り組みというのもよくわかりました。ありがとうございます。その中で私どもの施設や、児童に関する相談を受ける中で、なかなかこの数、何て言うんだらう、施策というか用意されているものに当てはまらない方っていうか、なかなかそこに支援がなかなか届かないですとか、例えばショートステイの枠組みって一応対象だったり規定っていうのがあるんですけども。なかなかレスパイトで利用して欲しいとか、なんかちょっともう少しショートステイが、お

母さんとか保護者さんのリフレッシュのために使えないかみたいな。何かそういったちょっと声も聞いたりすることもあってですね、この施策の中でやってらっしゃるルールや事業の中に、どうしてもちょっと何か適用というか対象にならなくて、ちょっと大変だったとかケースによってはちょっと、虐待ですとか、ちょっと危機的な状況に子どもさんや保護者さんがなったっていうような、ちょっとそういうケースについても、ぜひ、知りたいなっていうことがちょっと1つ、はい。あります。以上です。

議長)

はい。ありがとうございます。何か事務局の方からは、ありますか。

子育て支援局長)

はい。すいませんありがとうございます。様々なケースがあって、そういった中でやはり利用できない方、または、利用できる立場というか条件があっても、それが満足いただけない方ってこともいろいろあるかと思えますし、具体的にどういったことがあるのかってこともあるんですけども。ちょっとそこら辺もしっかりと分析をして、可能な限り、計画の方には反映させるなり、また活かしていきたいかなというふうに思います。

議長)

他はいかがでしょうか。ございませんか。よろしいですかね。今のお話でもございましたけどもこどもの分野だけではなくて、他の分野との兼ね合いとかですね、重なりとか、複雑化、多様化してるとかですね。そういうような問題もかなり出てきていますので、またこどもだけの分野でちょっと収まりきらないようなところもまだあるかなと思うんですけども。その辺りは地域福祉とかの方でも、議論にはなっていますので、またこちらの方からもね。地域福祉の方に上げていくのもありかなというふうには思います。はい、ありがとうございますでは、時間もありますので、この後までありますのでね、こども計画の策定についての方ですね、事務局の方から説明お願いしたいと思います。

事務局) 倉吉市こども計画の策定について説明。

議長)

はい。ありがとうございます。ここまでのですね、説明に関して皆さんの方から何かご質問とかご意見ございませんか。はい。どうぞ。

委員)

ニーズ調査についてですが、25 ページ (2) 番、こどもや若者への意見聴取ですね。そこに設問として、「困っていること」とありますが、どういうふうな質問があるのでしょうか。お願いします。

事務局)

はい。ありがとうございます。設問につきましては、小学5年生から中学3年生を対象ということにしておりますので、非常に簡単な設問になっております。設問項目につきましては、後日結果とともに公表したいと思っておりますので、第2回目の会議になるかと思えますけれども、確認していただければと思います。設問の内容につきましては大体15問程度予

定しているところでございます。「困ってること」につきましては、本当に、単純に「何か困ってることはありませんか」というような問いかけをしております、選択項目といたしましては、例えば、「家族のこと」であったり、「友人のこと」であったり、「クラブ活動のこと」であったりというような選択肢を設けております。その回答によって、今後どういった施策展開をしていくかというようなヒントにしたいというふうに考えております。以上でございます。

委員)

600人程度というね、かなりの調査人数ですので、もう少し突っ込んだ書き方があるというより、幅広く、こどもの世界がどういうものか把握されるのかなっていう気がします。それからもう1点はですね、ここの中に、放課後児童クラブについてですが、これを利用して来てる子どもたちは非常に多いと思うんですね。その中でのやっぱり満足度はどうなんでしょうかね。子どもたちがどういうふうに感じて生活をしているのか。なかなか私、わからないので、そういうリサーチをされたことありますか。

事務局)

はい。ありがとうございます。放課後児童クラブに関することにつきましては、就学前児童の保護者の調査と、小学校児童の保護者の調査の方で、実は項目の方は作ってはいるんですけども、先ほど言われました満足度については実は、項目はございません。そういった調査につきましては、今後また検討したいと考えております。今、放課後児童クラブはICT化しております、保護者に簡単にアンケート調査するような機能もございますので、そういったのも活用しながら、調査をしていきたいというふうに考えております。以上でございます。

委員)

これ9月にされるってことで、アンケートもほぼできてと思うので、今からってのは難しいと思うんですけども、ぜひマチコミみたいな方法ですかね。そういう機能を使って、子どもたちの満足度というものをね、調査していただいて、それをまた元に、より良い内容の事業にしていだけたらなと思っております。以上です。

議長)

はい。ありがとうございました。他は皆さんいらっしゃいませんか何か。よろしいでしょうか。スケジュール等ですね。それから、全体の体系に関しても、今回は案ですけども、こんな感じと。これまでの計画の継続で、基本理念等を引き継いでいくというようなことでしたけども。よろしいでしょうかね。あくまでも案ですので、これからニーズ調査をされるということと、皆さんのご意見を踏まえて、この内容に関しては、特に24ページの方の内容に関しては、施策に追加があったりとかいうことも出てくるかなと思いますので、ひとまず案としてこういう形で考えておられるということで、よろしいでしょうか。はい。特にご意見等ございませんか。大丈夫ですか。はい。なければ、次の方に行かせていただきたいと思いますけどよろしいでしょうか。はい。では次の案件の方へ進みたいと思います。次はです

ね、2番目の方ですね倉吉市の公立保育所の再編計画の見直しについてということで、これまでの経過からというところをまず、事務局の方から説明をいただきたいと思いますよろしくをお願いします。

(2) 倉吉市公立保育所再編計画の見直しについて

事務局) 倉吉市公立保育所再編計画の見直し(経過、現状、課題)について説明。

議長)

はい。ありがとうございます。まずは、現状、それから課題ということで、ご説明がありました。皆様の方から何かご質問とかご意見とかございましたらお願いします。はい。どうぞ。

委員)

今回の資料を見せていただいて、すごく、数字がいっぱいで、難しいんですけども、すごく驚いたのは、37ページの、社保育園、令和13年にはもう11人しか入らないんだな。北谷が0、高城が9人。これ3つを、すいません。再編の話ですけども。合わせても1つの保育園になるのかな。これパターン3ですごく厳しく、たぶん出してある数字で、パターン2パターン1であって欲しいという願いはあるんですけども。社保育園は、うちは5歳の子どもが通っておりまして、老朽化はすごく、もう歩いていてもわかります。部屋は3つしかない。だけど、未満、年少年中、年長と。最低でも4ついるはずの部屋は3つしかなくて。クラスも複式であったりして、網戸もなく蚊が入り放題であったりして、すばりがすごい刺さるからということで、今年は床を、張りかえていただくということですからつるつるになって子どもたちが綺麗になったってすごい喜んで、どこの保育園も、築年数はもう38年、41年、42年とすごく古くなって。もう1つ驚いたのは、公立の保育園に入っている児童数、令和7年だと、33ページの上の表ですけど、1359人いるうちの277人しか入ってなくて、全体の18%しか公立の保育園に入っていないんだな。もうそこもすごく驚きで、私は自分の社保育園の子どもがっている保育園のことしか全然考えたことがなかったので、公立の保育園がどういう立ち位置であるのかというのを今回の会議で出さしてもらって初めて知りました。やっぱり民間の保育園があるっていうのが、倉吉市と、郡部とのやっばい違いかなと思って。やっぱり、その割合からいっても、私立のこども園と私立の保育所に入れるご家庭が多くなって。でもやっぱり高城があって、北谷があって、すごい少ないけど、保育園あるっていうのは、中山間地域には、私立の保育園やっぱり経営的には難しいから、お子さんが少ないから、入る方が少ないから。だけどやっぱり、社に家があって、お子さんが生まれる家があって、保育園は近い方が、やっぱり保育がしやすい、祖母が迎えに行ってくれるので、そういったことがあるので、少なくとも小さくても、社、高城、北谷、その3つを1つにして、なるべく便利なところ、いいところに置いて、今、この私立の方に行こうかなと思っている人でも、こどもへ新しい施設ができたんだ、少しでもそっちの方に行かれる方があれば、もうちょっとこの37ページのこの数字は、もうちょっと、かわってくるんじゃないかなとちょっと期待を込めて考えてるところでした。はい。取り止めのない話。

議長)

はい。ありがとうございます。何か事務局の方からコメントはありますか。

子育て支援局長)

すいませんありがとうございます。いろんな背景のもとに、この3園の統合ということで、これまで進めてきたところですけども、今は、ちょっと、止まっている状態ということで、ちょっと私たちも建設予算を出したところまでいったので、すごく残念な気持ちを持っておりますけども、やはり今後ですね、この会の中で皆様からのご意見をちょうだいしまして、また新たな、計画、方向性というものを出していきたいと思いますので、ご意見の方よろしく申し上げますありがとうございます。

委員)

すいません。昔は40年ぐらい前は、保護者会長してまして。それから、西郷小学校のPTA会長も、ずっと長いことしてまして。それから子育てにも随分離れてますが、それと全然関係ない話なんで、38ページに、保育士の会計年度任用職員が61%を占めてるという具合に記載しております。会計年度任用職員でという言葉で言うと格好いいんですけども、いわゆる臨時職員なんですよね。これは、その下の民間保育施設につきましては約70%が正規の職員ということになってます。非常に非対照、対照的な数値なんですけども、そして、40ページを開いてみますと、保育士の確保に不足してますと。それは当たり前じゃないですか。安定しない職の、臨時職員として雇用されるのはね。雇用として安定して、行政が施策として、やってるんであって、文章では、担い手不足の解消に向けた取り組みが大事ですと言いながら、臨時職員じゃないと雇わないと。片一方こっち側では、そういう施策をしておきながら、こういう書き方がしてあるというのが、非常に矛盾がしてると思ってますんで。その次の役割の4に、保育における質の向上。1年ごとの雇用の保育士さんが、同様の仕事をさせておられるんですね。正規の保育士と、1年更新の保育士さんが、現場では同様の仕事してるんですね。ですから、書いてあることと、現状が、行政が公立としてやってることが矛盾してる。ということを私は個人的に指摘をさせていただきたいというふうに思います。以上です。

子育て支援局長)

はい、ありがとうございます。市としましては、正職それから非正規の比率の割合ですね、正職が非常に少ないというところは大きな課題としてとらえております。長年の経過の中で、現状こういった形になってしまっているということで、市としても、一気に難しいことではありますけども、人事担当ともお話をしておりますのが、少しずつでも正規の割合を上げていかないといけないということで、今課題として持ってるところでございますので、ご指摘いただいた点はしっかりと受けとめさせていただきたいと思います。保育士の確保ということでいきますと、民間さんの方もかなり苦勞されているというふうに伺っておりますし、やはり、なかなか募集をしても、正規、もう非正規もなかなか、応募がないと。少ないというような状況が続いてきておりますので、なかなかこれも他の業種についても同

じょうなことを言えるかと思えますけども、人口減少というようなこともありますし、いかにして確保していくかっていうところを、県などと一緒に取り組みをしているところですので、またそういったことも今後につなげていけいけたらなというふうに思っております。ありがとうございます。

委員)

私学の面から少し話をさせていただきます。私が、こども園に来させていただいてからもう10年になります。で、来たときは最初、定員は180人でした。だんだんだんだん、集まらなくなっていくか減ってきてまして、やがて162人で145人、そして今年は135人になっています。次は125かなというふうに考えてますけれども、私学ってどうしても経営を考えなきゃいけません。そういう中で、来年の4月に、湯梨浜町田後にかなり大規模な、150名を超えるような企業型の認定こども園ができるというふうに聞いておりますので、これも大きな危機だと思っております。そういう中でですね、これを市の保育施設が、これからどうされてるのかはこの議論の中で決まっていくなんでしょうけれども、やっぱり私学も大きなね、いやこれ果たしてどうだろうってことと、やっぱり行きたくなきゃいけないですので、そこどうやってその私学との整合性を取りながらね、その再編計画を立てていくのか、ぜひ、公立だけの計画じゃなくて私学含めた、全体の中での視点で議論いただくようお願いしたいなと思っております。以上です。ありがとうございます。

健康福祉部長)

はい。ありがとうございます。今言われた視点ってのはまた、倉吉市の場合は私立保育園もありますし、どちらかというとなら私立保育園さんの方が数は断然多いわけでございます。今までの流れからしますと、奥部の方のですね、どうしてもこどもさんが少ないところについては、公立の方が担当させていただいておるといような状況でございますけども、全体でやはり今回ももう1回この会議の中でそういう再編についてのご協議をさせていただくってことの中にはですね、やはり倉吉市の全体の公立保育園と私立保育園を全部含めて、そういうことを全部あわせた視点の中で、もう一度やっぱり考える必要があるだろうなっていうことも1つ考えて、この会の中にもんでいただくということでございますので、その視点についてはそれぞれの委員さんもですね、お持ちいただいてっていうふうなことを期待してるところでございます。ありがとうございます。

議長)

ありがとうございます。他は皆さんございませんか。よろしいですか。いいですか。はい。今、おっしゃったようにですね、子ども・子育て会議の中でこの議論を、この再編計画について話をするということは、前段の最初の方の、こども計画の方でも、倉吉市の子ども・子育てに関するニーズとかですね、現状とかがっていうものを、全体を見るわけですね。その全体を見た中で公立の保育所或いは民間の保育所ですね、そういったところでどういうふうにそのニーズを満たしていくかというような、そういう視点。今お話をされたような視点というのは非常に大事ななというふうに思います。私は大阪に長いこといたんですけども大

阪なんかはですね、むしろ民間保育所の方が非常に強くて、もう公立保育所なんかは大分民営化されたりとかですね、むしろ民間の力を、より強く、活かしてもらって、公立はもう本当に、そこを補うだけというような形にどんどんこう進んでいく、政治的ないろんな思惑もあるんですけども。そういったところもやっぱりあたりします。鳥取に来てやっぱりまだこういう公立保育所が、たくさん残っているということを見るとですね、やっぱり公立保育、公立のこの存在意義というものがまだきちんとあるんだっていうところを、確認しつつもですね、やはり時代の流れの中で少子化とかいうようなことも踏まえての、やっぱり議論するのは必要なんだなってふうに思っておりますので。皆さん、それぞれの立場からですね、ぜひ、今日は説明聞いただけですので、次回以降ですね、また皆さんから積極的にですね、ご発言をいただければいいなというふうには考えております。はい。では、あともう少し、この後にですね、公立保育所の役割とかですね、そういうところが出てきますのでこのあたりに関して、事務局の方から説明をお願いしたいと思いますよろしくお願いします。

事務局) 倉吉市公立保育所再編計画の見直し（役割、考え方、推計）について説明。

議長)

はい。ありがとうございます。基本的な考え方とかですね、それから役割に関してのご説明がありましたけれども、皆さんの方から何かご質問とかご意見ございませんか。よろしいですか。何か。今日はどちらかというところ、これまでの動きとか、それから今後の動きとか、現在の状況とかっていうところのご説明でしたので、まだなかなか掴めないなっていう感じはするかと思いますが、どうでしょうか。よろしいですか。何か。はい。こちらから示せるものもあれなので、今日はこのぐらいということにさせていただきたいというふうに思います。では、以上ですね、今日の審議すべき内容というのは終わりましたので、あとは事務局の方にお返しをします。よろしくお願いします。

7. その他

8. 閉会

司会)

はい。ありがとうございます。委員の皆様、慎重なご審議をいただきまして、ありがとうございました。日程7、に移らせていただきます。その他についてでございます。事務局の方からは、特にございませんが、委員の皆様から何かございますでしょうか。はい。では、最後になりますが、倉吉市健康福祉部長、吉川よりお礼のご挨拶の方させていただきます。

健康福祉部長)

はい。皆様慎重なご審議をいただきましてありがとうございます。本日は概要説明というようなことぐらいですね。最初の取っかかりということでもございました。次の会議は、素案的なものもですね、お示しをさせていただきたいというふうに考えてます。何かそういうものがないと、具体的な議論にはならないというふうには思っておるところでございます。ま

た、今回、子ども・子育て会議でご議論いただきますのはこども計画の関係もございますし、それと、もめにもめたといいますか、保育所の再編の関係についてもですね、いろいろご意見をいただきながら、今年度末までにはその結論を出していきたいというふうに考えております。皆様ですね、今までの経験だとか、お知恵を拝借してですね、両方ともいい計画になるような形で収めていきたいというふうに考えておりますのでどうぞよろしくお願いいたしたいと思います。本日は本当にご苦勞様でございました。ありがとうございました。

司会)

以上をもちまして第1回倉吉市子ども・子育て会議を閉会いたします。次回の日程につきましては11月ごろ予定しておりますが、また事前に日程調整の方をさせていただきますので、ご協力のほどよろしくお願いいたします。本日はお忙しい中ありがとうございました。